











表紙の作品 学童保育所 第2太陽の子

 発 注 者
 日野町

 所 在 地 蒲生郡日野町三十坪

 設計・監理 株式会社 片淵建築事務所施 エ 有限会社 マツイ工業

 構造・規模 S造 地上1階 187.24㎡



巻頭言

公益社団法人 滋賀県建築士会 会 長 山本 勝義

我が国において、学者にして聖人と呼ばれる人は、日本陽明学の始祖として名高い我が近江賢人、中江藤樹をもって始めとすると言われ、その偉大な中江藤樹先生が11歳の時に読んで感動し、立派な人間になろうと志を立てるきっかけになったのが、中国古典『大学』の次の一節です。

「天子自り以て庶人に至るまで、壹に是れ皆身を修むるを以て乾を為す」

天子から庶民に至るまで、自分の身を修めることこそが根本であり、自分を修めるという根本を疎かにして、会社も国家も治めることはできないのです。

重責を担う者がその立場にあるまじき行為をしておきながら、地位に恋々としていつまでもしがみついていることがよくあります。しかし、自分のことも修められない指導者に決してまともな組織運営はできず、その地位も長くは保てないものです。これは、政治家、実業家をはじめ、他のあらゆる立場の人にもいえることです。

かつて明治天皇は、初めて東京帝国大学をご視察された時に、国家の柱石となる人物を養成する最高学府に自分を修めるための学科、修身科がないことをご危惧され、後に「教育勅語」を発せられました。その末尾には「朕爾臣民ト俱二挙挙服膺シテ咸其徳ヲーニセンコトヲ庶幾フ」とあります。

天皇も国民も目指すところは一つであり、徳の道を歩んでいくことを希う。教育勅語には『大学』の精神が息ついていたのです。

『大学』には、

「物に本末有り、事に終始有り。先後する所を知れば、則ち道に近し」

という一節もあります。

物には必ず本と末があり、事には必ず終始がある。何を先にし、何を後にするかをわきまえ、実行すれば、 人の道を踏み外すことはないと説かれています。

本末については、木でいえば、根が本であり、枝葉が末。人間でいえば、徳性が本で、知能、技能は末であり、人間を創る上では、まず徳性を涵養し、身を修めることが大事だということです。

加えて、事の終始をわきまえるということ。

時間はもともと無始無終で、どこから始まり、どこで終わるかは分かりせん。しかし、その時間にも始め と終わりがあります。一瞬をとってみれば、そこが終わりでもあり、同時に始まりでもあります。

親鸞聖人に、「あすありと思う心の徒桜、夜半に嵐の吹かぬものかは」という歌があります。

先というのは分からないもので、夕べまで元気だった人が交通事故に遭い、今朝はもういないということもあり得ます。ですから人間は、一瞬、一瞬が終わりという自覚を持って真剣に生きることが大切です。一瞬、一瞬をよき形で終えることができれば、次の一瞬がよき始まりになるのです。

冒頭に触れた中江藤樹先生も「当下一念」という言葉を残しています。

いまの一念、これを続けることだという意味です。

毎年正月になると心が清らかになり、よしやるぞ、と新たな決意が芽生えてきます。その清絶な心を続けていくことが大切です。

中江藤樹先生は、まさに、11歳の時の決意を一生貫き、「当下一念」を実行した人といえます。



私の同窓生の友人は定年を間近に控えた時、今の仕事を辞めた後に何をしたらよいか分からず、お先真っ暗で不安でしょうがないと言っていました。私はそんな時、今の仕事を最後まで一生懸命やれば必ず次の世界も開けてくるから、あまり先のことは思い煩わないようにと助言した覚えがあります。自分のいまいる場で最後まで全力を尽くすことが、新しい道が開けてくる一番の大本になります。一瞬、一瞬を大切に、常に有終の美を迎えられるように努力を重ねてゆきたいものです。

我が国の文化財や伝統文化を通じて地域の活性化を図る為に、文化庁では地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「Japan Heritage (日本遺産)」として決定し、有形、無形の様々な文化財群を総合的に活用する取り組みを支援しています。

昨年度において、平成27年4月、滋賀県がエントリーした「琵琶湖とその水辺景観―祈りと暮らしの水遺産」が「Japan Heritage」として全国の18件の中に選ばれ認定を受けました。滋賀県の景観形成の一助となるべく仕事を「生業」とする者として、先人の営みに感謝し、後世にそれを守り継承していく事に、行政や関連団体とも連携しながら、共に取り組んで行きたく考えております。

また、昨年6月施行の改正建築士法は、建築物の設計・工事監理の業の適正化及び建築主等への情報開示の充実に重点が置かれ、直接業務に関わる内容となっています。構造計算書偽装問題や建築士免許証を偽造した建築士なりすまし事案などの発生により、建築士に対する国民の目がより厳しくなっています。建築士自ら真摯に取り組むことが求められており、この改正建築士法の周知・普及に努め、建築士としての責務、役割を果たし、県民の皆様、業界の皆様と共に、よりよい地域社会を構築していきたいと考えております。

そんなおりに、昨年は、データー改ざんの大きいニュースが2件もありました。

免震ゴム不良問題と杭打ち工事の報告用データーが故意に改ざんされた件であります。

旭日化成建材㈱の過去10年の杭工事実績より、全国3,052件の内、滋賀県内の対象件数は21件で、内施工データーの流用が判明した件数は3件ありました。

さまざまな事情が有り、本質が容易にわからないこともありますが、どちらも建物を支える一番重要な部分であり、問題がより大きくなりました。持てる技術を最大限に発揮し、誇れるものを残すことが物作りの現場での生きざまですが、昨今の社会状況による、コストや工期が最優先的との考えがあったのかもしれません。今回の事件を機に我々業界側も考えなければいけない問題もおおいにあると考え、業界関係者のひとりとして襟を正さなければなりませんが、前回の姉歯事件の時の様に、行政が対応を急ぐあまり、現場が混乱するような指導はしてほしくないと考えます。

今年は、5月に伊勢志摩でG7サミットが開催され、また、日中韓サミットも日本が議長国となります。 世界で日本の役割が大きく期待される年でもあります。

おりしも、今年はオリンピック、パラリンピックイヤーでもあり、リオデジャネイロで日の丸を付け、活躍する選手を応援してすばらしい思い出の残る年になる様、期待致しております。

最後に、中江藤樹先生の道歌を記します。

「くやむなよ ありし昔は是非もなし ひたすらただせ 当下一念」



Works 会員の作品

界近江行政組合 日野很防者
(仮称) 湖南グループホーム
ヤクゴ薬局 能登川店
株式会社ウメムラ
宗教法人覚成寺本堂······7
N邸 ····· 7
Florence 8
特別養護老人ホーム レーベンはとがひら
琵琶湖くじら保育園
サービス付き高齢者向け住宅 オアシス
伝統工法石場建て比良の家 10gg 10gg 10gg 10gg 10gg 10gg 10gg 10
ゆきはたこども園
さくらがおかこども園
北部地域総合消防防災センター訓練棟・・・・・・・12
保健福祉複合施設 ながはまウェルセンター 12
市営住宅 陽ノ丘団地





東近江行政組合 日野消防署

RC造2階建 延1,508㎡ 日野市

施工:株式会社 フジサワ建設



(仮称) 湖南グループホーム

W造平屋建 延379㎡ 野洲市

設計:株式会社 片淵建築事務所 施工:株式会社 ヤマタケ創建



ヤクゴ薬局 能登川店

W造平屋建

東近江市

延199㎡

設計:北村総合設計事務所 施工:株式会社 大兼工務店



株式会社ウメムラ

鉄骨造2階建 延753㎡ 野洲市

設計: 土野池建築設計事務所





宗教法人覚成寺本堂

木造平屋建 草津市 延199㎡



N邸

S造 3 階建 守山市 延275㎡ 設計:有限会社 学建テクノ 施工:有限会社 学建テクノ

設計: 土野池建築設計事務所



Florence

W造2階建 大津市

設計:株式会社 伊藤工務店 延363㎡ 施工:株式会社 伊藤工務店



特別養護老人ホーム レーベンはとがひら

S造3階建 延4,937㎡

甲賀市

設計:株式会社 湖北設計 施工: 辻寅建設 株式会社











琵琶湖くじら保育園

S造2階建 延604㎡

草津市

施工:守建設株式会社

設計:有限会社サム建築デザイン



サービス付き高齢者向け住宅 オアシス

鉄骨造2階建 延1,013㎡ 高島市

設計:有限会社 ゆー空間建築事務所 施工:株式会社 桑原組



伝統工法石場建て比良の家

木造2階建 延113㎡ 大津市

設計:有限会社 梓工務店 二級建築士事務所

施工:有限会社 梓工務店









ゆきはたこども園

S造2階建 延2,030㎡ 野洲市

監理: 野洲市健康福祉部こども課・株式会社 ビルディング・コンサルタントワイズ

施工:株式会社 桑原組







さくらがおかこども園

S造3階建延1,381㎡

草津市

設計・監理:株式会社 ビルディング・コンサルタントワイズ

施工:株式会社 内田組







北部地域総合消防防災センター訓練棟

S造3階建 延1,062㎡ 大津市

監理: 大津市建設部建築課・株式会社 ビルディング・コンサルタントワイズ

施工:株式会社 笹川組



保健福祉複合施設 ながはまウェルセンター

S造2階建 延2,234㎡

長浜市

設計:株式会社 岩佐建築設計事務所

施行:株式会社 材光工務店









市営住宅 陽ノ丘団地

RC造6階建 延2,651㎡ 草津市

設計・監理:株式会社 ビルディング・コンサルタントワイズ

施工:桑原組・守建設特定建設工事共同企業体

特集 空き家をデザインする

平成25年住宅・土地統計調査(総務省統計局)によると、滋賀県には空き家が77,800あるとされ、賃貸・売却用の空き家と別荘等を除くその他空き家は35,700とされています。これらは年間に数千の単位で増え続けています。空き家対策特別措置法が施行されたことで、空き家に対する意識は急速に高まっています。既に空き家を所有する方、相続などにより今後空き家を所有する可能性のある方は、早期に対策をおこなう必要がありますが、その対策に必要な情報は乏しいのが現状です。

そこで(公社)滋賀県建築士会は平成27年4月、(公社) 滋賀県宅地建物取引業協会と共に滋賀県空き家管理等基 盤強化推進協議会を設立し、空き家の所有者や利用希望 者からの相談を受けるための基盤づくりを行いました。 窓口を開設して約4か月で約40件の相談が寄せられまし た。それらの内容は空き家を持つ人々の苦悩を映し出し ていました。

空き家には建物劣化などの問題があるのはもちろん、 それを改善するために所有者は相続の問題や経済的な問題などと向き合わねばならないため、根本的な解決は非常に困難なものとなっています。窓口に寄せられた相談は相続、経済的困窮、高齢者の独居など、私たち建築士がこれまでの業務で鍛えた専門知識だけでは道筋をつけることができない事項を多く含んでいました。空き家は建築士の職能に揺さぶりをかけているのです。

一方、空き家をまちづくりや経済活動のチャンスと捉えて積極的に活用することも期待されています。私たちは空き家を取り巻く状況を多角的に捉え、収益性・公益性・社会性の少なくともどれかを見出し、状況を変えるアイデアを提供しなくてはなりません。

ここで紹介する7つの事例は、それぞれ個性的に空き家を活用しています。何かのテーマを空き家と掛け合わせて魅力的な場所となっています。それにはどんな人が関わっているのか。何が魅力の源になっているのか。どんな苦悩があるのか。

この特集でもし興味を持っていただけたら、ぜひとも お出かけしてみてください。



空き家×art

変わらないために変わり続ける 木造校舎

gallery-mamma mia

空き家×街道

歴史街道にぎわいふたたび 町家ダイニング「TAKUMIYA」 /旅籠屋「匠」



空き家×移築再生

都市と農山村をつなぐ滞在型 体験施設

山里暮らし交房 風結い



空き家×学生ワークショップ

役目を終えた蔵が地域と繋がる プラットフォームへ

> 雑貨&ギャラリー Y ukiakari



空き家×シェアスペース

80年の時を超えて生まれ変わっ た長屋

湖北の暮らし案内所 どんどん



空き家×まもって活用

金堂まちなみ保存会



空き家×つないで活用

大津百町・町家じょうほうかん



空き家×art 変わらないために変わり続ける木造校舎

gallery-mamma mia



初めて訪れた人が不安にならないように設置されている控えめで可愛い看板が、丘の上へと誘ってくれます。坂を上るとかつて学校の校舎だった建物が見えてきます。校舎にしては随分小さな木造の平屋建て。今から90年ほど前に建てられた当時の雰囲気がそのまま残るmamma mia(マンマミーア)。木工作家である川端健夫さんの工房と、奥様でパティシエールの美愛さんによるpâtisserie MiA(パティスリーミア)、そしてgallery-mamma mia(ギャラリーマンマミーア)からなる「文化の発電所」です。



東京で修業をしていた二人は自分たちのお店をこの場所に求めました。その思いに共感した地元の人々は、公共の財産であった校舎を使うことを許しました。ただしそれは10年以上放置されて激しく痛んだものでした。ガスも水道もないところでキャンプのように寝泊して手直しをした二人の手によって校舎は蘇りました。

眺めのいい窓に風が通り抜けるのを感じたり、薪ストーブの火が有難かったり、少し遅れて咲く桜が入口の硝子に反射していたり、野の草花がさりげなく飾ってあったり、ここでは四季の変化に寄り添って普通に暮らすことの幸せが体現されています。

オープンして既に10年が過ぎ、マンマミーアは何も変わっていないようで、実は小さな変化を繰り返しています。倉庫が展示室になり、増えていくお客さんに対応できるようにカウンターができ、ランチが楽しめるようにテーブルが作られ、新建材で増築されていた部分には紙や漆喰で改修が施されました。それらはすべてお二人とスタッフ、そして仲間の作家さん達の手によって。

一度は役割を終えていた木造校舎はこうして新陳 代謝を繰り返しています。これからも変わらず訪れ る人を迎えるために、この木造校舎は変化を続けて いるのです。



gallery-mamma mia

pâtisserie MiA

Open 11:00~17:00 (L.O.16:30)

Closed 月·火

〒520-3305 滋賀県甲賀市甲南町野川835

電話/FAX 0748-86-1552

http://mammamia-project.jp/

空き家×街道 -歴史街道にぎわいふたたび-

町屋ダイニング「TAKUMIYA」/旅籠屋「匠」



旧東海道は水口宿の中央部で三筋に分岐し、東西 で紡錘状に合流して一本の街道に戻る。その東の分 岐近くに街道を挟むように町屋ダイニング 「TAKUMIYA(匠屋)」と旅籠屋「匠」がある、 もともと町屋であった建物を活用した飲食店と宿泊 施設である。

宿場町の時代、このあたりは本陣や脇本陣、旅籠 が軒を連れていたところである。かつての水口宿東 海道の風情を最も残しているエリアといえる。

古い町屋で飲食店を開きたいとオーナーでシェフ の谷垣氏が、旧東海道沿いの古家を五十軒ほど捜し 歩いた後に現在の町屋にたどり着き9年前に夢を叶 え開店した。建物は昭和6年建築の町屋、持ち主か らは、「最小限の改修で」との要望もあり、厨房と カウンター部分の改修にとどめながら、飲食店舗と しての雰囲気作りに努められた店舗内は、ジャズの 流れるどこか懐かしく落ち着いた雰囲気の店にまと められている。

一方、街道を挟み今から5年前に開店された旅籠 屋「匠」は何十年も空き家となっていた町屋である、

地元でも永く空 き家であること が案じられてい た建物であった。

この建物を、 同じ町内在住の 建築士、岡村俊





男氏(本会会員)の口添えにより谷垣氏が購入し改 修したこの建物は一日一組限定の宿泊施設旅籠屋 「匠」として見事に蘇えり、通りを挟む二棟の建物 は街道景観と賑わいを創った。

この旅籠屋として蘇えった建物は、明治元年に建 てられた町屋で、襖には当地出身の書家で明治三筆 として名をはせた「巌谷一六」の書、帳場や客室に は水口岡山城城主加藤家家紋入り長持ちや、江戸・ 明治期の調度品がディスプレイされている。

オーナーの谷垣氏は、旧街道沿いの建物を現状に 近い形で残し活用することが出来、自分の思ってい た「夢」を形に出来たことの誇りと充実感を熱く語 られていた。また氏は、今後は若い経営者や、新し く店を構えようとしている人たちと連携して、街道 沿いの町屋や商家の古い建物を利活用した店をもっ

と増やし、街道 沿いの町並みを 残して行く為の コーディネート や情報発信が出 来ればと夢を語 られていました。



町屋ダイニング「TAKUMIYA」

TEL 0748-62-1648

Open $11:30\sim15:00$, $18:00\sim25:00$

旅籠屋「匠」

TEL 0748-62-0063

空き家×移築再生 都市と農山村をつなぐ滞在型体験施設

山里暮らし交房 風結い



長浜市(旧東浅井郡)浅井町の地に建つ、築150年、 湖北地方の伝統的な古民家は、住まいびとを無くし て久しく、解体寸前でした。そんな古民家が、高島 市安曇川町中野の地で、伝統構法によって移築再生 され、田舎暮らし体験交房「風結い」として生まれ 変わり活用されています。



2010年5月のオープンから今年で6年目、来館者 数は年間500名余りに及びます。滞在利用は週末や 長期連休時を中心に、最近では遠方のリピーターも 増えています。

2010年7月には、セルフビルド塾の参加者の手に より、下屋が増築されましたが、印象的な8寸勾配 の大屋根を含む外観は湖北に佇んでいた頃の姿を思 わせます。内部には柱・梁は勿論のこと、存在感抜 群の1間半もある水屋が再利用されて今昔の橋渡し をしています。一方、地元産間伐材を利用した環境 負荷の少ない現代の暮らしも実現させています。

「風結い」のある安曇川町中野は、中山間地域に



位置することもあり、移住促進・都市農山村交流の 拠点としての期待も大きく、耕作放棄をされた田ん ぼの再生を兼ねた農業体験などを通して、自然と地 域と人が触れ合う場も提供しています。四季の明確 な高島での暮らしはいいことばかりではありませ ん。移住はハードルが高いけれど、里山での暮らし には心魅かれる何かがある。リピーターの多くに、 工芸作家などクリエィティブな職業従事者が多いの も納得できます。地域の資源と都市のニーズが風と 土の様に自然と出会う場所が風結いなのでしょう。 解体寸前であった古民家が、新たな地でまた百何十 年と地域の暮らしを見守っていく役目を担ったので す。過去と現在、そして未来をつなぐ場として。



山里暮らし交房 風結い~かざゆい~

〒520-1204 滋賀県高島市安曇川町中野795-3

<受付>9:00~18:00 365日対応

TEL 090-2069-5448

http://kazayui.musubime.tv/

古民家×学生ワークショップ 役目を終えた蔵から地域をつなげるプラットホームへ 雑貨&ギャラリー Y ukiakari

八幡山の西側、とある集落にある古民家。 長い長い時間をかけて、大事に大事に修復をされて

きました。もう一度、そしてこれからずっと家族が 住まう家になるようにと、母娘2人で「ギャラリー

年が過ぎ、、、

母屋に隣接する「蔵」の改修に着手されることに なりました。母屋だけではなく、いつか蔵もという 家主様の思いが行動に変わりました。ご縁があって、 本会青年委員会が県内の建築系大学に通う学生とと もにワークショップで改修を進めました。



足場を組み、みんなで外壁の塗装したり、竹小舞、 左官(土壁塗り)などの昔ながらの構法を用い、あ ちこち剥がれ落ちている状態の壁を補修しました。



また、八幡山が見渡せるように、四季折々の景色が 楽しめるように、新たに窓を設けました。そして、 最後に土間コンクリート打ち。一輪車で100回以上、 運びました。

蔵改修の目的の一つ、地域の人がふらーっと立

ち寄れる場所。2013年3月10日に「ギャラリー ukiakari | としてオープンされました。





「集うところ ようこそ きそじの家へ」 じ」に人が集うみんなに温かなところになってほし い、そんな思いから「お茶のみ広場 きそじ」と名 づけ併設されました。

蔵として、ここに住む人の生活を支え続けた役割 を終える。カタチを変え、再び建物としての役割を 果たす。今度は、この場で地域の人が自然とつながっ ていけばという思いを込めて。。。

Y ukiakari

OPEN 11時から日暮れまで 木 金 土 日と祝日 ※臨時休業のお知らせは Y ukiakari jpにて

〒523-0071 滋賀県近江八幡市大房町390

TEL 0748-33-6574

E-mail info@kisoji-yukiakari.com

空き家×シェアスペース 80年の時を越えて生まれ変わった長屋

湖北の暮らし案内所 どんどん

緑濃く空の広い琵琶湖のほとり、歴史ある湖北・ 長浜のまち。大通寺のそばの長細い路地をすすむと、 小鮎や鴨の泳ぐ米川に小さな「どんどん橋」がかかっ ています。湖北の暮らしを楽しむいろいろな人たち が集い、知られざるローカリティが育まれ、あなた らしいアイディアや楽しみが「どんどん」と広がっ ていく場所になることを目指して、橋のたもとの日 当たりの良い前庭がある築80年の長屋をリノベー ションし、小さな秘密基地のようなシェアスペース が完成しました。

黒壁に代表される長浜のまちづくりの取り組み は、伝統的町並みを活かしながらガラスなどの新た な商業を充実させ観光市場を拡大してきました。し かし、観光だけに頼らない地域に根ざした持続的な 市場を開拓しなければいけないという町家に住まう 皆さんの思いから「地元志向」「時間が過ごせる居 場所」「起業・挑戦の場」などの具体的キーワード が実現できる地域コンテンツ創造拠点が、平成28年 4月にオープンしました。それが湖北の暮らし案内 所「どんどん」です。



自由なワークスタイルを実現するセカンドオフィ スとして、ちょっとした打合せやミーティングの場 として、快適NET環境で情報収集の場・集中でき る試験勉強の場としてのワークスペース。地産品を 使ったオリジナルメニュー開発の場として、ワンデ



イシェフや新規出店のトライアルの場として、友人 同士の持ち寄りパーティー会場としてのキッチンス ペース。さらにイベントスペースでは、各種のイベ ントやワークショップ会場として利用できるほか、 キッチンと一体でギャラリー×カフェとして利用で きるなど、使い手の発想しだいで自由に空間が変化 します。

生産・加工・サービス提供に携わる新たな担い手 をバックアップするため、新しい文化やつながりの 創出・町家のコーディネートの創出についてより多 くの方々に興味を持って頂きたい、という思いも込 められた拠点です。まちなかに居ながら湖北の自然 を感じる生まれ変わった長屋、どんどん。あなたら しい楽しみを見つけに来てください。

湖北の暮らし案内所 どんどん

営業時間 9:00~18:00

(イベント開催時は21:00まで)

定 休 日 水曜日

所 在 地 滋賀県長浜市元浜町15-10

電話番号 0749-53-2532

E-mail info@dondonbashi.com P www.dondonbashi.com 長浜まちづくり株式会社 0749-65-3935

空き家×まもって活用

金堂まちなみ保存会(東近江)

近江商人を多く輩出した東近江市五個荘金堂地区は、平成10年12月、古代条理の残る農村集落として、 国の重要伝統的建造物群保存地区(重伝建地区)に 選定されました。遡ること12年前、昭和62年から滋

賀県の景観形成事業として天保川の改修や錦鯉の 放流が実施され、水辺景 観が保全されます。

そして平成7年4月、 地区住民全世帯主からなる「金堂町並保存会」が 設立され、町並み保存に 取り組むこととなりまし た。



伝建地区制度による町並み保存を過疎化対策、観光施策として取り組む地区もありますが、地縁、血縁というつながりが色濃く残る金堂地区は、先祖から継承された生活文化、伝統的建造物、歴史的集落景観を次世代に引き継ぎながら、そのまま住み続けていくことを目的にしています。平成19年2月にNPO法人を取得し、「特定非営利活動法人金堂まちなみ保存会」となってからは、地区外の人も入会、さらに平成21年4月から金堂まちなみ保存交流館を活動拠点に、市から委託されたまちなみ相談業務を行っています。

まちなみ相談員は、理事長をはじめとする8名の 地元会員が担い、月に2回開催される東近江市歴史 文化振興課との定例打合せ、年に2回開催される保 存審議会に出席しますが、現状変更や修理事業の相 談など個別に住民に寄り添った対応を年に約30件こ

なしています。 昨今は空き家に なった農家住宅 を陶芸家の方に 紹介したり、同 じく空き近江商 なった近江商



本宅が東日本大 震災以降、滋方 移住を決めたち につながったり そのような事まし た。空き家は所



有者に相続する子どもがない場合もあれば、子ども がいても金堂地区に戻らない場合もありますが、地 縁・血縁のつながりにより、すみやかに情報が共有 されます。一方で、当地に住みたいと思う方々の情 報もこのつながりで共有されます。

さらに次世代に町並みや伝統文化を継承する活動 として、平成18年から「金堂まち探検」という金堂 地区の小学生を対象にした取り組みをしています。 平成24年には皇太子殿下の行啓を賜ったこの活動は



子どもたちに金 堂に住み続けた いという心を醸 成し、長い目で 見ると空さ 策の一翼になる かもしれません。

次世代に町並みや伝統文化を継承する活動 子どもまち探検 平成18年8月 金堂まち探検 II 「企堂たんけん、はっけん、ほっとけん」まちのお宝マップ作成 平成19年8月 金堂まち探検 II 「たんどもおもろい金堂まちたんけん」まちのお宝かるた作成 平成20年8月 金堂まち探検 II 「やっぱりおもろい金堂まちたんけん」まちのお宝かるた作成 平成21年12月 金堂まち探検 II 「心っぱりおもろい金堂まちたんけん」お地蔵さん探検 絵手紙作成 平成21年12月 金堂まち探検 II 「心っに響くまち探検~金堂のまちなみはいいなあ~」紙芝居作成 平成21年12月 金堂まち探検 II 「金堂も近江八博も素晴しいまちなみ」思い出を絵に描こう 平成23年8月 金堂まち探検 II 「中成25年12月 金堂まち探検 II 「サイコロふってまちタンケン」すごろく作成 平成26年8月 金堂まち探検 II 「サイコロふってまちタンケン」すごろく作成 平成27年8月 金堂まち探検 IX 「すごろくでわかる金堂のにきっソー」すごろく作成 平成27年8月 金堂まち探検 X 「すごろくでわかる金堂のにきッ!」すごろく作成 平成27年8月 金堂まち探検 X 「そうだ、熊川宿へ行こう!!」者狭町熊川宿の子どもたちとの交流

特定非営利活動法人 金堂まちなみ保存会

〒529-1405 東近江市五個荘金堂町904番地 電話/FAX 0505-801-7101 (金堂まちなみ保存交流館) E-mail kondo-machinami@e-omi.ne.jp



空き家×つないで活用

大津百町・町家じょうほうかん(大津)

大津の中心市街地、いわゆる「大津百町」のルーツは天正14年(1586)頃の大津城築城に伴い、城下町ができた頃に遡ります。慶長5年(1600)の関ヶ原合戦を前に東軍に味方した大津城主の京極高次が攻め込んできた西軍を迎え撃つために籠城、その前に敵軍の隠れる所を無くすため自ら城下町に火を放ちました。勝利した徳川家康が大津を商業都市として再建、江戸幕府の直轄地(天領)として発展し、江戸時代中期には町数が百あり、後期の古文書に「大津百町」と記されています。

高度経済成長期以降、市街地の拡大に伴い、空洞化が進みましたが、平成15年10月古都指定や京町家の取り組みなどをきっかけに、中心市街地の歴史的遺産、町家に注目が集まります。翌16年に市が町家残存数分布調査を実施し、空き家と思われる町家の実数も把握されました。17年には市が設置した「大津百町の町家再生研究会」が、空き町家の所有者と活用希望者をつなぐ組織の必要性を提言、所有者情報を収集するNPO法人大津祭曳山連盟と活用希望者情報を収集する大津市の協働で、20年に「大津百町・町家じょうほうかん」の運営が始まりました。さらに平成27年1月より中心市街地活性化を担う官民が出資する株式会社まちづくり大津に運営を移管、ホームページで情報を閲覧できるようになりました。

これまでに登録された物件数は16件、間接的な成

来年春には、大津で初めてとなる本格的な「B&B (ビーアンドビー/ベッド・アンド・ブレックファー

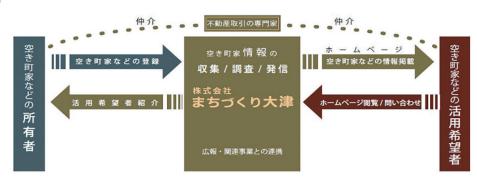
スト Bed & Breakfast の 略語でイギリスに多く存在 する朝食付き 宿泊施設)」 も生まれます。







大津百町・町家じょうほうかんのしくみ



大津百町・町家じょうほうかん

電話 077-523-5010 (株式会社 まちづくり大津) http://www.machidukuri-otsu.jp/machiyabank/

株式会社 まちづくり大津

大津市浜大津一丁目4番1号 旧大津公会堂2階 http://www.machidukuri-otsu.jp

平成27年度 滋賀県ヘリテージマネージャー育成講座成果報告特集 「私が見つけた歴史的建造物の保存活用計画」

平成27年度第2回目の開講を致しました「滋賀県へリテージマネージャー育成講座」では、全10講座計60時間の育成講座に27名が受講され、前年度補講者を含め19名がヘリテージマネージャーとして認定を受けられました。

この育成講座を修了するにあたっては、全講座の受講とグループに分かれての調査研究「私の見つけた歴史的建造物の保存活用計画」の成果発表が課されています、H27年度は5つのグループに分かれて県内各地の建物を対象に、現地調査を行い保存活用計画をまとめられました。

この成果発表は第10回講座の中で「公開講座」として開催させて頂きました、その調査研究の成果を本誌に掲載させて頂きます。 (誌面の関係上発表会で使用されたパワーポイントのデーターは全データー (50~60の内) のごく一部を掲載しております)

平成27年度講座内容

第1回講座・開講式 平成27年9月12日出 「歴史的建造物の保存活用の意義、HMの役割、保護」

来賓:滋賀県教育委員会・森 良和管理監(公社)日本建築士会連合会・岡本森廣副会長

講師:日向進(京都工芸繊維大学名誉教授)、武内正和(文化庁参事官)、沢田伸(ひょうごHM機構)

- 第2回講座 平成27年9月26日(土)「滋賀の文化財建造物、保存修理の理念、保存修理の事例」 講師:池野 保(滋賀県文化財保護課参事)、田原幸夫(京都工芸繊維大学大学院特任教授)
- 第3回講座 平成27年10月17日出「建造物の調査と文化財としての評価①②③」

講師:大野 敏(横浜国立大学工学部教授)

- 第4回講座 平成27年10月24日(土)「指定建造物解体修理事業の流れ、演習 1・建造物調査と文化財としての評価」 講師: 菅原和之 (滋賀県文化財保護課主幹)
- 第5回講座 平成27年11月7日(土)「破損調査と修理計画の作成、日常の点検・維持管理と周辺環境整備」 講師:大野 敏、菅原和之
- 第6回講座 平成27年11月21日(土)「破損調査と修理計画の作成、伝統技法・工法、演習 2」

講師:大野 敏

第7回講座 平成27年12月5日出)「重伝建地区について、五個荘金堂地区の事例紹介・見学」

講師:石川慎治(滋賀県立大学人間文化学部准教授)、水谷 勝(東近江市教育委員会歴史文化財課)

第8回講座 平成28年1月16日(土) 「歴史的建造物の防災計画と耐震補強」

講師:福本正和(元 滋賀県立大学教授)

第9回講座 平成28年1月30日仕 「歴史的建造物の保存と活用、文化財の創造的活用をめざして」

講師:石川慎治、日向 進

第10回講座・修了式 平成28年2月13日(土) 「私が見つけた歴史的建造物の保存活用計画」発表会

講師:日向 進、石川慎治、池野 保





【Aグループ研究成果】私が見つけた歴史的建造物の保存活用計画

テーマ:小島政晴氏住宅 保存活用計画

メンバー:市川真理、千葉 薫、小島道雄、山崎 真、野邑辰治

1. 所在地

滋賀県湖南市柑子袋795(旧甲賀郡三雲村大字柑子袋) 柑子袋は、江戸時代初期に五街道の一つとして整備された東海道沿いの石部宿と水口宿の中間に位置する農村集落であった。参勤交代やお伊勢参りの道としても賑わったという。北には岩根山、菩提寺山、南に亜星山を望み、野洲川が東西に流れる。明治以降、東海道と並行して北側に、鉄道草津線と国道1号線が整備された。それに伴い明治4年には100戸程度であった世帯数が今日では1,200戸に増加している。また、周辺には式内社(国家が祭祀した神社)や、湖南三山として知られる天台宗の古刹、常楽寺、長寿寺、善水寺が点在する。

2. 建築の経緯

明治41年発刊の柑子袋誌によれば、江戸時代中期に、素封家、内林松右衛門が酒造業を営み、酒屋松右衛門として代々栄えていた屋敷の一部であると思われる。しかし、漸次零落して、内林音松氏の代には没落し、遺族は四散した。柑子袋誌中には寛政2年の記述があること、災害や火災の記述がないことから、大規模に手を加えられることなく存在し、150~200年は経過している建造物ではないかと思われる。

その後、近在の小島源太郎氏の弟、為八氏が買い取って分家として移り住み、2代目 長次氏、3代目 政晴氏の代に至っている。下水道工事の際、造り酒屋であった当時の名残である直径2~3mの酒樽の一部 建物東側土中から発見されている。

3. 沿革

没落した内林家住宅を、初代 小島為八氏が買い取った際には、酒蔵や酒造場は撤去され、現在の住居部のみが現存していた。現住の3代目 小島政晴氏からの聞き取り調査によると、初代 為八氏が分家してから昭和40年代までは改修、修理した形跡はなく、別棟にある風呂、便所などを使用していたと思われる。

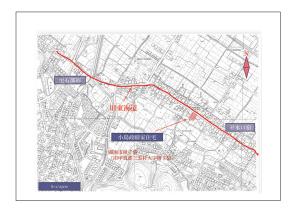
2代目 小島長次氏の代に、建物南側に縁側を設け、中ニワに続いて浴室・便所を増築しているが正確な月日は不明である。また、長次氏は京都へ大工見習いに奉公していたことから、京の町で目にした紅殻格子を自邸にも取り入れたのが現存する北側の格子であると思われる。その際に、縁側を半間拡張したらしい。昭和49年、床修復補強を施した。

3代目 小島政晴氏の代になると、昭和54年、本建て大屋根の、垂木・野地板の更新、屋根瓦葺き替え、外壁の左官補修を行っている。また、現地調査ではその際に施したと思われる小屋組みの補強及び屋根勾配を変更した痕跡が見受けられた。玄関入って直ぐのニワに前室の畳の間を増設し、その際に現在の天井仕上げを施工し、差し鴨居を覆ってボード張り、付け長押仕上げとした。平成6年には、東側台所、和室二間を洋室に改修している。この際に、化粧梁は覆い、大戸・潜戸を壁内に納めてしまった。

4. 建築の概要

本 建 桁行 $6 \parallel \times 梁 \parallel 3 \parallel (中 2 \parallel w)$ 置部分)

間取り 桁行 7間×梁間 5間(整形四間取り、土間、台所他)





平成27年度 滋賀県ヘリテージマネージャー育成講座成果報告特集

基 礎 石場建て、外周部 延べ石

屋 根 本屋根 日本瓦土居葺き、切妻屋根(地 棟 登り梁)

軒 裏 化粧板、化粧垂木顕し

外 装 土塗真壁(木舞壁下地)漆喰壁仕上げ、 一部しぶき板張り、モルタル掻き落とし

内 装 和室 床…畳敷き 壁…砂壁仕上げ 建具…木製建具、障子、襖 天井…竿縁天井

ニワ 床…モルタル金コテ仕上げ 壁…砂壁仕 上げ 建具…木製建具 天井…化粧梁顕し

5. 建造物としての評価

この建物は街道に対して桁行7間と間口が広く接している。玄関両脇に設置された駒寄、京町屋に見る厨子二階にも似た建築様式、玄関周りに使用されている欅の柱・梁・装飾腕木に関しては建設時の原型がそのままに継承されていると考える。紅殻格子については、小島家中でも諸説あるようで設置された時期が定かではないが、幅3間の紅殻格子が長きに渡ってこの街道沿いの景観の一部として馴染んでいることは明らかである。

戦後から今日に掛けて、生活様式の変化・家族構成の変化に伴い増築、改築を繰り返し、経年劣化に伴う修繕を施しているが、内部の木組みに関しては当時のまま残っている。顕著な蟻害や腐れもなく化粧梁、柱の状態も比較的健全である。また、当初の整形4間取りの間取りも大きく変更された形跡がないということも貴重である。

6. 破損状況

現地調査による計測では、北東に1m50当たり30mmの傾斜、北東の柱が30mm沈下していた。 北側縁側の柱、梁、敷居に虫害の痕跡、天井化粧板に腐朽があった。奥座敷の縁側側垂れ壁に亀裂、欠損があった。

中2階 物置部分は煩雑に家財道具などが放置さ

れており、長期に渡って手入れがなされていないと 思われる。顕著な雨漏れなどの痕跡はないが、屋根 瓦葺き替え時に小屋組に補強した雲筋交い、束の仕 事が粗い。

南面の屋根瓦に一部破損があるが、街道側からの 外観は、東側の木戸門の経年劣化、紅殻格子の塗装 はがれが気になる。

7. 修理計画

北側縁側の天井化粧板の張り替え工事の際に、化粧ベニアで覆われている軒桁を現状復帰し、雨仕舞状況など調査することが望ましい。同時に柱の沈下、腐食虫害の状況を更に詳しく調査し、必要に応じて補強する。

奥座敷の縁側側垂れ壁の修復を行う。中2階は、 家財道具など整理整頓して清掃した上で、小屋組状 況の再調査が必要か。

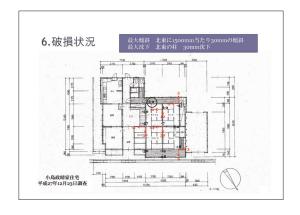
北面、玄関東側の木戸門については、破損状況を 更に詳しく調査し、必要があれば応急処置を施す。

ニワと東側洋室の間の化粧梁、柱が覆い隠されて しまっているが、材の状況を確認すること、また、 今後の維持管理を考えて、再度顕しにして現状復原 する。同時にニワの天井仕上げ、垂れ壁も現在の仕 上げから当初の仕上げに復原する。

8. 活用計画

この建造物は、旧東海道沿いに面して建ち、石部宿と水口宿の中間地点であり、柑子袋地区の中心地に位置する。旧道とは思えないほど全面道路の道幅は広く、その向かいには広場を有する区事務所がある。この区事務所は、区主催のお祭りや、三雲学区まちづくり協議会主催のイベント時には野菜販売所として活用されている。

また、湖南市観光協会、商工会、湖南市地おこし協力隊などが中心となって、手作りマップを作成し、 東海道ウォーク・みちくさコンパス歩こう会を開催







して街道筋の活性化をはかっている。石部駅を中心に徒歩4,5時間圏内には、湖南三山を始めとして、名利・古刹が点在する一方、うつくし松群生地や「全国森林浴の森百選」に選ばれた臥龍の森など豊かな自然を有する地域であるため、元々、まち歩きを楽しむ人々は多かったが、昨今のウォーキングブームが追い風となってか土日を問わず、街道を訪れる人々は増えている。しかし、街道沿いにはコンビニエンスストアはもとより、店舗も無く、よってトイレ休憩の場が不足している。

以上の地域的特色と背景から、この建造物を一部 改修し、街道沿いのトイレ休憩所を兼ねた、コミュ ニティー施設として活用することを提案する。建物 の維持管理の観点からも、改修で隠蔽されてしまっ た木組みは現状復原すると共に、ニワの東側洋室も 本来の土間(ニワ)に復原して、4間のニワとする。 建物躯体内に納められた大戸・潜戸を復活させ、建 物自体にも興味を持ってもらえるようにする。東の ニワの南にトイレを設ける。トイレには玄関からも、 東木戸門からもアプローチできるようにする。浴室・ 家人用便所に通ずる通路にてパブリックスペースと プライベートスペースを区切ることで小島家のプラ イバシーを確保する。開放的となったニワには休憩 用の縁台を設置し、セルフサービスのお茶を用意し ておく。街道マップ、お祭りの案内など情報発信の 拠点とする。街道沿いの住民やまちづくり協議会が 中心となって、街道沿いに連携して設置していく。 地域住民も街道ウォーカーも利用できる施設である。 産品の販売、野菜販売、軽食の提供も視野に入れて、 建物調査も継続し、維持管理に努める。

平成27年度ヘリテージマネージャー育成講座を受講して Aグループ **市川 真理**

私自身が、日々、建築に関わる中で、常に思う言

葉が「温故知新」です。先人の知恵と技には理にかなった裏付けがあり、現代においても何の遜色もないその造形美、ディテールには感銘すること然りです。そんな中、ヘリテージマネージャー(=歴史的建造物保存推進員)育成講座の存在を知りました。平成26年度に受講された方々が、充実した講師陣とその講義内容を絶賛されていたことも後押しして受講することにしました。

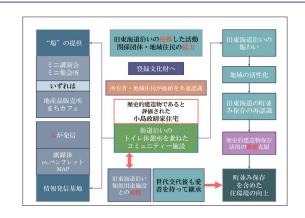
座学では、歴史的建造物の保存・活用の意義を丁寧に学びました。古社寺保存法から近年の登録文化財制度に至る流れの中で、ヘリテージマネージャーに期待される役割と展望をご講義頂きました。度々耳にした、地域に眠る文化遺産を発見し活用し保存し、まちづくりに活かす能力を持った人材、との言葉に重責を感じました。確かな実績を積まれ今も第一線でご活躍されている講師の方々のご講義は、貴重で興味深いものでした。

講義と演習で学んだものを基に、育成講座の集大成として取り組んだグループ研究は自信にもなり、自分に足りないものを知る機会にもなりました。調査から活用の提案までをまとめるという実践を通しては、グループの皆さんと互いの得意分野を発揮し合うことで充実した研究成果となりました。

建築士としての知識は勿論のこと、建築史、郷土 史、日本史、関係法規など多岐にわたる知識と、建 造物を調査し歴史的価値を理解できる目が必要で す。その地域に、その建築物に住まう人々と対話で きる資質が必要です。よって、私はまだまだ知識と 経験を積み重ねていかねばならいのですが、この学 びは日々の業務にも通じると思っています。

ヘリテージマネージャー育成講座は、建築士としての職能・職域の拡大につながるものであり、建築物と人とまちと暮らしに精通した建築士にこそ期待される能力だと思います。信頼されるヘリテージマネージャーとして活躍できるよう研鑚してまいります。





【Bグループ研究成果】私が見つけた歴史的建造物の保存活用計画

テ ー マ:川口家旅館併用住宅 保存活用計画

メンバー:市川 寛、山本良信、木津 晃、兼松平和、建部清晶

1. 所在地

明治初期から大正末期に栄えた大溝港の入江附近 の西近江路(旧国道161号線)と昭和2年に開通し た江若鉄道の大溝駅から大溝港までに取り付けられ た道路の交差点に面する場所に所在する。

また、近くには大溝城跡があり、5地区に地割された城下町に立地している。北側地区には旧国道に面し築150年の旧商家を改修、利用した「高島ビレッジ」があり $1\sim8$ 号館まで整備されている。

2. 建築の経緯

昭和5年に河口夘之吉氏により本家建屋、湯殿、 厠が建設され、昭和28年までに現在の建物形態(料 亭、料理旅館)の原型が出来たと考えられる。 ※聞き取り調査においては、昭和5年建設なのかは 不明であるが、登記簿における調査では、建物 一 番表示の登記が昭和5年になされている。(建設されたのはもう少し古い可能性がある。)

3. 沿革

によると、昭和28年時点では、1.木造2階建て居宅、 2.木造平屋立て便所棟、3.木造平屋立て玄関棟、 4.木造2階建て離れ棟、5.木造平屋建て居宅、6.木 造平屋立て炊事場棟の存在の記録が残っている。

主たる建屋は昭和5年までに建築され、登記記録

今回の研究においては、上記1番及び4番、6番建

物を中心に調査を行った。

4. 建築の概要

居住棟の間取りは、桁行7間、梁間3.5間(2階合掌規撰は桁行5.5間、梁間3間)で東側・西側に料亭旅館の建屋が増築されている。1階及び2階には南面に縁側及び回廊を配置し、手入れされた庭を望む配置がなされている。屋根については、大正末期から昭和初期の建物としては非常に良質な瓦を使用し、鬼瓦には家紋をまた棟積のし部には波形とうさぎをモチーフにしたものを配している。

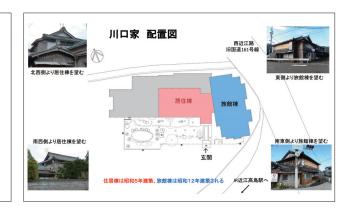
5. 建造物としての評価

川口家は昭和の初期から戦争をへて終戦に至る激動期を物流の要である水路及び陸路の要所に建築された建物で人々のくつろぎの場所として重要なものであったと考える。

建物群の母屋は現在仏間等を安置する居宅であるが、当初は宴会の場として、2階の和室は披露宴の場として利用されていた。また旅館として使用されていた西・東側の建物棟、特に東に位置する調理場・食堂・帳場等は現在では見かけられなくなった平面形態を有している。また、東側2階の和室の開口からは、遠くは琵琶湖、近くの大溝港を望めたであろうと思われる。

そこにに設けられた木製高欄調手摺は当初の旅館







の姿を残している。

当建物は、主は居宅であるが、従なるものの料亭・ 旅館がその時代を垣間見ることができる重要なもの であると思われる。

6. 破損状況

基礎は周囲はコンクりート布基礎形状(近世に補修された可能性あり)で内部は玉石直置き基礎であり一部、コンクリートにて補強されている。また、その補強によるためか、建物の傾き・柱の傾きは1/100以下であり、建物としては沈下等は見られない。ただし、見え掛り部においては、木製建具の損傷がはげしく、2階床のたわみ、不睦がみられる。

7. 修理計画

屋根:全体的に健全であるように見えるが、棟の波 打ち、瓦の破損がみられるため、部分補修を行う。 特に谷樋部の補修を重点的に行う。

外壁:焼き杉板張りの全面補修、及び塗り壁の補修 を行う。また、当時の外観を復元するため、カラー 鉄板張り等の箇所は塗り壁、板張りに変更する。東 側2階の窓手摺を現況を参考に新設改修を行う。

建具:外部建具の内、アルミ建具が使用されている 箇所は、残存する本製建具の形状を参考にし木製建 具を新設する。また外部・内部の既存木製建具は調 整及び塗装にて使用を継続する。

内部: 2階建て部分の建物の床の補修を行う。(1・2階のたわみ・不陸がはげしい箇所) 東側1階の調理室のいけす附近の修理を行い当時に近い状態を復元しする。※活用計画の一環の見学施設として使用

するため。

外部:外周の塀の外壁及び瓦屋根の補修。南面の玄 関への門の屋根瓦補修。

設備:特に電気設備に関しては、漏電等が起こらないよう充分な調査を行い改修を行う。照明器具については、当初の古い器具が存在するため、使用可能ならば点検の上再使用する。

8. 活用計画

今般、高島市勝野地区は高島市景観形成地区及び 日本遺産に指定され、大溝城の城下町が形成されて いる。また、江戸時代末期の建物を地元商工会若手 の有志が改造し「びれっじ1号館」と命名して全国 的に反響を呼び、現在8号館まで小売業として現存 に至っている。

その一角に位置する「川口家」は形態を変えず一部観光の拠点として、建設当時の歴史を感じながら 旧城下町の商業の中心として、インフォメーション センター的用途として利用を図る。

※高島びれっじには、案内センター的なものがない。
○活用計画の概要

- 1:南面に現存する玄関及び門を主たる玄関・入口とする。そのため、門に至るアプローチを整備し、 駐車場スペースを確保する。(一部の樹本の伐採 を行う。)
- 2: 東側1階の食堂・ロビーを勝野地区の総合案内 施設として改修する。
- 3:居住部分の1・2階を開放し南面の庭の眺望を 楽しめる休憩施設とする。
- 4: 東側 2 階を開放し、大溝港・江若鉄道・大溝城





平成27年度 滋賀県ヘリテージマネージャー育成講座成果報告特集

の歴史を紹介するパネル展示場として活用する。 5:調理場の改修を行い、軽食が提供できる施設と し、来場者の憩いの場として活用する。

※一年を通しての活用が必要である。そのためには、他のインフォメーション施設との連携が大切であり、地区を問わずたくさんの情報を提供出来る拠点を目指します。

平成27年度ヘリテージマネージャー育成講座を受講して Bグループ **兼松 平和**

私の住む高島市朽木小川の思子淵神社 3棟 (本殿・蔵王権現社・熊野社) が国の重要文化財(建造物)に指定されたとの新聞報道がなされました。 そんなよきものが私の住む所にあったのかと驚きを 隠せませんでした。

そんなことがあったのち、知人の紹介でヘリテージマネージャーの講座があるが一緒に受けてみませんかとの誘いがありました。私の妻いわく、朽木のいなかの空気ばかり吸っていないで、たまには沢山の人たちのサークルに参加してみるのもいいのでは、との助言をうけ、前述のことも相まって参加させていただくことなりました。

さて、最初の講座を受けた時点では、これはえらいところに来たものだと感じました。むつかしいを論じる以前の状態でありました。しかし、以前仕事で社寺建築の設計を行っていた関係上、講座の中で神社仏閣が出てくると、好奇心がわき説明の内容にのめり込むようになりました。そんなことがあり、回数を重ね現地実習においても、講師の先生の熱心

な説明によりまして、ようやくヘリテージすなわち、歴史的建造物保存活用とは何かが少しなりにも理解できるようになりました。最後に私たちを緊張のるつぼの中におとしいれるヘリテージ研究発表会は、また、最初はどのように進めていくのか全く解りませんでした。

しかし、講座というものは面白いもので、またうまくできたもので、私たちを復習という行動に駆り立てます。どのようにまとめたらよいのか、講師の先生が作成してくださった資料を何度も読まなければできないということです。

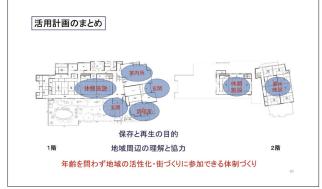
私たちの研究チームは4名で構成されました。各 自の得意箇所を分担して、叩き台作り、また全員で 討論を行いました。ここに年甲斐もなくチームワー クというものができたことが非常に大きな収穫であ り、よろこびでありました。

最初の講座の感想とは全く逆のことが第10回の研究発表会後に起こっています。それは、"この4人で再度タッグを組み、高島市の歴史的建造物の調査の必要性をアピールしようやないか。"と言えるまでになりました。みんなで力を合わせれば何とかなる。ヘリテージマネージャー育成講座で得たものは、生涯掛け替えのないものとなりました。身近なところから、ヘリテージの発掘のため、「足元を掘れ、そこに泉湧く」この言葉を私たちBグループ・4名の今後の座右の銘として頑張ろうと思います。

講師の先生方、事務局の方々たいへんありがとう ございました。

以上







【Cグループ研究成果】私が見つけた歴史的建造物の保存活用計画

テーマ:北川邸 (秀明庵) 保存活用計画

メンバー: 寺井伊三男、福井真弘、河島美智子、矢場義章、尾崎孝祐、桑原吉隆

1. 所在地

滋賀県東近江市五個荘川並町

滋賀県湖東地域。東近江市のほぼ中心に位置する 五個荘は、中世には山前五個荘と称され五つの荘園 が所在していました。その一つの南荘が現在の金堂・ 塚本・川並・石馬寺付近当りを示しています。古来 より交通の要衝で、古代には東山道、近世には中山 道や御代参街道(伊勢道)が通り、現在も国道8号 線と東海道新幹線が町の中央を横断しています。そ の利点を活かして、中世以降近江商人発祥地の一つ として発展してきました。現在、農村集落として伝 統的建造物群保存地区に指定された金堂地区を中心 とし、近江商人本宅の町並みが残り往年の賑わいが 感じられる地域です。金堂地区に隣接している川並 地区も、近江商人屋敷や伝統的な農家住宅が趣きの ある町並みを構成しています。調査対象の北川家は、 この川並地区の西よりに位置します。

2. 建築の経緯

当家が建築したのではなく、古家を移築し住まいとしたと思われます。

現当主は14代目となります。北川家は近江八幡市 野田町にて、鍛冶屋職人として生計を立てていました。

しかし、11代目で廃業し、12代目の北川秀次郎氏 (明治3年生)が11歳から30歳まで近江商人塚本源 三郎家に奉公に上がりました。そこで、塚本家の別 家制度により、明治32年頃に塚本源三郎氏が購入し た古家を移築し、屋敷を贈与されたのではないかと 思われます。秀次郎氏は、自邸に名前の一字をとり 「秀明庵」と命名しました。

当主への聴き取り、閉鎖登記簿謄本、塚本家雇用 形態より推測すると、築150年~120年の建物と思わ れ、平面構成・屋根形状より、農家住宅として建て られた建物と推測します。

秀次郎氏は退店後、普請巧者(今で言う建築家) となり、成功者と成りました。代表作として、石塚 郵便局、川並病院などがあげられます。

この秀明庵は、当主となった秀次郎氏はもとより、 13代目にもこよなく愛し、改修増築が行われて来ま した。現当主も大事にし、修理改善に尽力されてい ます。

3. 沿革

明治32~33年頃に移築された建物と思われる事より、定かではありません。

ザシキ、デノマの柱の上部に継手跡が見られる事は、古材を再利用した建物なのか、改修された建物なのか判断しかねる部分があります。

しかし、秀次郎氏が建築業務を行いながら改修し、 その後13代目が、戦後間もなく、表縁先・茶室・上 便所・浴室部分の増築、書斎の改修等を行い、維持 管理のために茅葺屋根に鉄板を被せました。

また、庭にも造形が深く、全ての居室より眺められるよう構成されました。

現当主は、別邸で生活をされ、13代目の隠居とし





平成27年度 滋賀県ヘリテージマネージャー育成講座成果報告特集

て使われた後は、創作フレンチ店として利用されて いましたが、店主体調不良のため閉店となり、現況 は空き家状態となっています。

4. 建築の概要

木造 平屋建て住宅

茅葺き屋根 (現在鉄板が被せられている)、桟瓦 葺き庇

外壁:焼板、白漆喰塗 内壁:漆喰、砂壁塗 床:板張、畳敷

天井: 煤竹、ササラ天井、竿天井

原型は、桁行7間、梁間4間、約33坪の入母屋造りの茅葺き屋根形式で、滋賀の民家類型からすると、湖東型整形四間取りⅡ型の変形とみられます。

屋内は土間部分と床上部分に別れ、土間の平側を 出入口とする平入形式となり、土間裏側は炊事空間 となっていました。床上は田の字平面となり、表側 が土間からデノマ、ザシキ、裏側がダイドコとネマ の4室構成となっています。また、扠首の頂点が平 面中央の大黒柱通りと一致する点で湖東型整形四面 Ⅱ型と判断しました。

後日の増築により、ザシキの裏側に床の間、仏間。 その裏に通り抜け廊下を挟み上便所、茶室、書斎。 西側のニワ部分に浴室水屋が置かれ現在の建物を構成しています。

5. 建造物としての評価

近江商人塚本家の「塚本家譜(別家制度)」により移築された屋敷として、歴史的文化的に貴重な建物と思われます。

玄関大戸口の腰高障子を開けると、三和土たたき

の空間があり、米を収納する当初からの戸棚が目を ひき、家紋が入った提灯箱をはじめ明治時代の形状 を色濃く残している建物です。ザシキ・デノマの空 間は、天井が3m70cmと大変高く、煤竹で構成さ れています。ここは創建当時のままで、壁には化粧 貫を配し、梁組みを用いた架構は迫力があり力強さ が感じられ、見る人をたのしませてくれる空間構成 となっています。この様な架構はあまり見受けられ ない点からも、空間を味わって貰いたい貴重な建物 です。

6. 破損状況

柱の傾斜、床の不陸等は若干ありますが、前項で述べた様に折に触れ、当主達が愛情込めて手を入れているので、大きな問題は見受けられませんが、建 具の劣化に伴う手直し、取替は必要と思われます。

屋根において、北側上便所・茶室と本屋との取り 合い部分に、雨漏りの痕跡が見受けられす。

7. 修理計画

- ・水廻りの改修
- ・防犯設備(現状はL型棒鍵で非常に安易な物)
- ・建具の修理・取替
- ・耐震の検討
- ・煤竹天井部手直し(竹の隙間から埃が落ちないように)
- ・庭の整備
- ・駐車・駐輪場の確保
- ・取り合い箇所に於いて、谷樋の調査を含む改修 現状を大きく変更することのないよう、利用計画 に基づき修理計画を行います。

8. 活用計画

東近江市の市政としても、観光が重要課題の1つ







となっている事や、昨年度の海外からの旅行者が過去最高となり、観光客の受け入れ対策が問題視されている昨今。また、これからは観光地化されていない所が注目されている事を考えて、ネットなどを有効利用し、五個荘の町並みを楽しみ、伝統文化を体験する様な民泊を提案する意見も出ましたが、さらに検討を重ねた結果、地域を元気に活性化するような活用とは、地域の人々に認知してもらい、まず地域の人達が楽しめる空間造りが必要なのではないだろうかとの意見になりました。

純農村から発展し、近江商人発祥の地の1つとして、店ではなく本宅が置かれ、奉公人の育成の場であった町並みが今もしっかりと残っているのが五個荘の特色です。

寺院を中心とする集落構成、商家・農家住宅が混在する景観など、湖東平野の伝統的農村風景を残している地域であり、歴史と共に近江商人の文化が残る町は、人を育てられる町であると思いました。女学校創始者として女子教育に情熱を注いだ塚本源三郎氏の母親、塚本さと氏に代表されるように、近江商人の人材育成の精神は文化と共に未来を繋げていきます。そこで、定年退職をされた元教員の方達や、地元の方達の特技などを教えてもらう、寺子屋的な場としての利用を提案します。

様々な習い事や体験学習ができる施設として、次世代の人材育成となる拠点として、また第二第三の近江商人的人材を排出し、活躍をする中でまちづくりや地方創世に繋げられる施設になれば素晴らしいと思います。

歴史的建造物から人へ、人から町づくりへ…繋いてゆく文化は未来を造ります。

平成27年度ヘリテージマネージャー育成講座を受講して Cグループ **寺井 伊三男**

親の代から建築に従事しており伝統的建造物にも 興味を持っておりましたところ、お客様より古い建 物への活用方法のご相談を頂きました。しかし、自 身の知識が乏しく説得力に欠けていると痛感した 時、ヘリテージマネージャー育成講座を知り受講す る事となりました。ご指導頂いた先生方からの調査 方法や、伝統的な建物の見方などを学べたことは大 変貴重な財産となりました。とりわけグループ分け がなされた後5人のメンバーで五個荘川並町の現地 調査や資料作成・意見交換などをした実践学習では、 メンバーそれぞれの捉え方や考え方の違いも分かり 大変有意義な時間で、これからの活動の進め方など 少し身に付いたように思います。調査物件の所有者 様からの聞き取り調査では、建物に対しての思い入 れが言葉の端々に感じられ、聞き取り調査の大切さ を知りました。この数カ月の活動を通して、大変素 晴らしい講習と仲間に出会えることが出来たと感じ ました。

今般の社会全体を見渡して、少子高齢化に核家族化が進み、従来からの町は空洞化現象が起こってまいりました。国の空き家対策の取り組みも始まりましたが、解体するにも費用の面や、CO²の発生にもつながります。今回受講して居住者から見放された建物や、保存していかなければならない建物に、新たな活用方法や価値を見出すきっかけ創りの手助けになれるように取り組んで行きたいと思います。





【Dグループ研究成果】私が見つけた歴史的建造物の保存活用計画

テーマ: 旧東海道水口宿旅籠町「別所家」旧「河内屋 保存改修計画 メンバー: 田村真也、中川 清、谷本僚平、中本美栄子、小森洋輝

1. 所在地

「別所家住宅」は、滋賀県甲賀市水口町元町、旧 東海道水口宿に位置します。

水口宿は、三筋の通りが紡錘形に広がる全国的に も珍しい町の形態をしており、別所邸は、その三筋 の中央を通る東海道に面しております。

2. 建築の経緯

現地調査において 母屋の棟札等の建築年代を確定させる資料をみつける事が出来なかったが、お家の方の話によると、築200年以上は、経過していると思われます。又、座敷については、96年前、別所家先代のご長男誕生の記念として建築されたということです。

3. 沿革

別所家住宅は、先の「旅籠町軒別絵図」や、聞き取りなどによると、肥物屋「河内屋」としてその歴史が始まったと考えられる。肥物屋とは、肥料を扱う商家の事らしいのですが、何を扱っておられたかは、不明です。その後、ふとん屋さんをへて、現在は、お醤油屋さんを営まれておられます。

4. 建築の概要

母屋 桁行14.68m 梁間8.6m 二階建て 切妻屋根 落ち棟 桟瓦葺き 座敷 桁行11.16m 梁間6.08m 平屋建て 寄棟造り 桟瓦葺き

5. 建造物としての評価

母屋 現在、築200年をこえる母屋は、その時々の 使い方にあわせて、増改築を重ねられていま すが、玄関を入った際に見られる、丸太が入っ た大引天井や、その上に設けられたツシ2階 は、当時の面影をとどめています。

座敷 母屋のガッチリした印象とは逆に繊細な建物 である。

外部は丸桁に丸垂木、丸隅木、小舞軒裏で軒の出が1200mmあるため軒裏にはね木が入っていると推測される

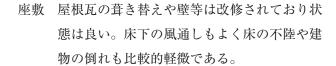
内部はL字の縁側を配し、八畳間が二間に床、出 書院、床脇等を設けている。

6. 破損状況

母屋 築200年を超える歴史ある建物であり、丸太 による小屋組や立派な差鴨居によって頑丈に 組まれており大きな破損、腐朽、歪みはない。







7. 修理計画

①修理計画

母屋 6 前述の通り建物状態も良いので、活用を踏まえた改修を行う。

座敷 建物全体としては非常に状態がよく、大規模 な修理を行う必要はないと思われる。経年劣 化による補修程度である。

②活用に基づく改修計画

母屋 みせ及び食堂部分の改修を行い、みせでのお 醤油の対面販売及び食堂部分は展示スペース として改修する。

座敷 建具の緩みや建てつけの調整、畳の新調 東 海道筋の板塀の出入口 板戸の歪調整、丁番 の取替えを行いスムーズな開閉を可能にする。

8. 活用計画

(A) 活用の考え方

①地縁型コミュニティーの中で〈気づき〉を促がす。【展示スペースの設置】

別所家で使っていた生活用品等の展示は、「私の家にも」という地域での暮らしに対する気づきを促がしてコミュニティーの促進になると考えます。また、次代を担う地域の子供たちにも今に続く昔の生

活を知り繋いでいくきっかけともなるでしょう。

②別所家の商いは、お醤油の販売【みせ1の改修】

お醤油販売の看板を設置して、上級醤油のアピールをする。東海道水口宿を歩いて行く観光客は、見受けられるが、この界隈には、ちょっと立ち寄ったりするような場所が少ない。そこで、①の展示スペースへ誘導する意図も含め、(みせ1)で、明治大正昭和と存在し続ける大きな醤油樽を見ながら、その当時そのままの梁あらわしの土間空間で、美味しいお醤油の対面販売をする。

③手入れの行き届いたお庭は、見るだけで心洗われ 和みます。【少しだけ魅せる】

この裏門から入ったお庭の景色を旅人にも地域の 人々にも開放します。ここで、雰囲気を感じて頂き、 ②~①の存在を言葉書き等でお知らせすることで、 興味を持って②①に進んでいただけると思います。

④離れの活用

離れは、別所家2代前のご長男の結婚式、法事やお客様の宿泊の場として使用されてきました。そこで東海道筋を行き交う人たちのお休み処としての活用や茶室等の催しの場として、また隣組の中での集会所などの活用等が考えられます。

(B) この歴史ある建物の維持について 他の歴史ある建造物と同様に別所家でも、今ある

6 破損などの状況 母屋について 《基礎・床組・軸組部》 柱部礎石の次下や床組、軸組の破損も少なく、床の不陸や倒れ等も軽徴であった。 〈壁〉 外部、内部共に良い状態を保っているが、一部上塗りの破損剥落がみられる。 〈建具》 経年劣化によるゆるみや障子紙、機紙の剥れが部分的にみられる。 〈その他) 不製の外窓格子及び木部の塗装剥がれがみられる。

座敷について (屋根、輪部) 大きな破損、腐朽、虫害等は見られない。 (基礎、床下的等も軽微であった。また床下も風通しがよく土台、柱脚の湿気による損傷も経覚である。 (床の不陸・建物の建ち) 細部にわたり丁寧な仕事がされているので、不陸や倒れ等も比較的軽微であった。 (天井) 縁の天井板に雨漏りの痕がみられる。(現在は、屋根瓦葺き替え済み) (壁) 外部、内部共に良い状態を保っているが、一部上塗りの破損剥落がみられる。 (建具) 経年劣化によるゆるみや障子紙の剥れが部分的にみられる。 (畳) 経年劣化により藁床のヘタリがある。

平成27年度 滋賀県ヘリテージマネージャー育成講座成果報告特集

状態を維持することに、大変なご苦労や維持費用を 要されています。そこで、離れをイベント企画等を 行なう会社や趣味の会などに貸し出し、主催者に歴 史的建造物の維持の為に、文化協力金を頂き修理費 用の足しとして活用して頂く。貸し出しのPRは、 インターネットの古民家サイトやホームページの アップなどが有効だと思われます。

ヘリテージマネージャ育成講座を受講して

Dグループ 小森 洋輝

昨年受講された方の紹介で今回受講させていただきました。初めはヘリテージって何や?どうゆう活動をするんや?っと思っていたが第一回の兵庫県のヘリテージマネージャーの事例として話していただいた時に、ヘリテージの役目や活動が少し解りました。

現在、ハウスメーカーの住宅が次々建っていく中、 和風住宅が目立ってきたような気がします。

伝統的建造物群保存地区である金堂を見学して立派な建物や街並みが残っており感動しました。ここまで来るのにもの凄い労力や住んでおられる方々の了解や協力、また行政の尽力などがあったと思うと凄いことだと思いました。

私が住んでいる日野町も商人屋敷など数多く残っており日野祭りには神輿が3基に曳山が16台有り巡行を観るためだけに開けられる桟敷窓などが有名で

同じ近江商人発祥地の五個荘と近江八幡は伝建地区になっているが日野もあれだけの歴史があるため伝建地区になってもおかしくない話だと思いました。空き家や過疎化問題があるなかで現在の日本を考えてみると昔みたいに長男が家を必ず継ぐといった風習が薄れてきているが、長男は生まれ育った地元が好きでたまらないと思う。

しかし、嫁が同居は無理となると住宅地へ出ていって親が亡くなると空き家になってしまうのが現状だと思う。しかし、農業振興地域だの、青字、白地だの、もう少し土地に対する法律が緩和されればもっと地域に残る若者が増え地域の活性化が図れ過疎化の問題が軽減されるのではないかと思います。

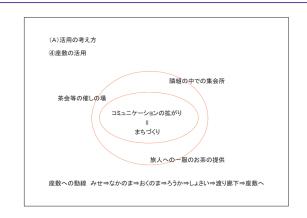
今回演習をさせていただいた中村邸は登録文化財 にはなっていたものの活用が全くされておらず御当 主は維持管理していくだけで大変だと思いました。

実際グループ発表で調査させて頂いた別所家も立派な座敷は全く使われていませんでした。

活用方針を計画するのもヘリテージの役目だと思うが、本当にそういった現場が現れるだろうか心配です。

今回受講させて頂いた事をきっかけにこれからの 自分の仕事にヘリテージマネージャーとして提案し たり、魅力ある建物を掘りおこし、守り活かしてい けるよう取り組んでいきたいと思っています。仲間 もでき受講させて頂いたことに感謝しています。







【Eグループ研究成果】私が見つけた歴史的建造物の保存活用計画

テ ー マ:旧W家住宅 保存活用計画

メンバー:藤居 繁、安澤邦彦、寺井昭男、近藤加奈子、柴谷幹子

1. 所在地

彦根城下を流れる芹川沿いの通称 "七曲り" の一 角に立地。この通りは、仏壇・仏具製造関連の建物 が軒を連ね、かつては賑わいを博していたが、現在 は、通りに活気はなく建物の空き家化も進んでいる。

2. 建築の経緯

戦後、親戚からオーナーの先代が購入されたもので、詳細は不明ですが、固定資産説通知書によると、 大正3年に三軒長屋として築造されたと思われる。

3. 沿革

三軒長屋のうち、当該建物以外は売却され内一軒 は解体し新築され、一軒は現建物を改修され倉庫と して使用されている。

昭和22年購入後、しばらく放置してあったが昭和40年頃に金物職人さんの借家兼作業場として使用され、その間水廻りの一部が修理をされている。

平成10年頃に、大屋根の葺き替え(土居葺から桟 葺)工事がなされている。

平成15年頃から空き家となっている。

4. 建築の概要

主屋は、桁行4間・梁間6間、平入り木造2階建

て、桟瓦葺切妻屋根、通り土間型の長屋町屋主屋東南に、桁行2間・梁間3間、棟違い日本瓦葺切妻屋根、一部瓦棒葺の浴室を増築・さらに奥に、桁行1間・梁間3尺の便所が在る。

5. 建造物としての評価

七曲りに面した敷地割は、通りに面して間口を狭く取り奥行はほぼ一定で奥に長い縦長の敷地に、間口いっぱいに建てられた奥に長い京町家の造りに似ている。

当該建物は、表土間を構え出入口とし、通りにわで奥と連結され炊事場・風呂・便所は奥に設け、また狭い敷地に居住面積を確保するため表側に2階を造り軒を低くした形式は、当時の町屋形態を残している。

表側の開口部には、格子をはめ込み、壁面は大壁 仕上げとし、格子との調和を図っている。

また、出桁を設け軒を深くしてさらに漆喰壁の袖 壁もあり、重厚な街並みの意匠を形成している。

内部には、かまど(おくどさん)・井戸・つし等 貴重な意匠形態も残している。

6. 破損状況

①表縁蹴込板の割れ





平成27年度 滋賀県ヘリテージマネージャー育成講座成果報告特集

- ②玄関入口足元の水腐り
- ③玄関桁のたわみ
- ④西側表2階外部壁落ち
- ⑤別棟と主屋の屋根取合い部雨漏れ
- ⑥便所北側壁腰の損傷
- (7)脱衣・浴室 屋根・壁・腰・浴槽・床の腐朽大
- ⑧勝手口外部腰板 腐朽および柱足元の水腐れ
- ⑨炊事場土間腰腐朽
- ⑩大屋根瓦一部損傷

7. 修理計画

主屋の小屋組の丸太梁の径が細く継梁のため、金物による補強が必要と考える。沈下柱をジャッキアップした後、床下全面に鉄筋コンクリートを打設する。偏心に配慮し意匠を損なわないように、構造用合板・筋違により耐震補強を施す。

水廻り各部の損傷が著しく、修理が困難と思われるので解体し、別棟で10㎡未満の増築をし脱衣・浴室・便所を設けるようにした。これと同時に、主屋との取り合い雨漏りも行う。

今回の改修工事を行うことで安全性・耐久性の向 上を図り、長く住み続け・活用し続けられることを 願っている。

8. 活用計画

彦根市の「歴史まちづくり法」や「七曲りフェスタ」のかかわりなどにあった活用を考えると、

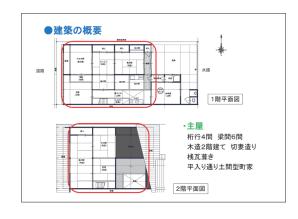
1. 商業施設

- 2. 職人作業場
- 3. 学生のシェアハウス
- 4. デイサービス
- 5. 高齢者憩いの家

…などが考えられる。その中で現在の人通り・駐車場・活気・イベントへの参加等いろいろの条件を精査したところ、街に活気が生まれ、イベントにも加われる点や、近隣に大学が在るという立地を生かしての学生のシェアハウスとしての活用を提案する。

再生工事は、手を掛けだすと限りがなく、やりたい事はたくさんあるが限られた予算の中で学生・近隣住民のボランティアの力を借りることでコストを削減をし、参加者同士のコミュニケーションも図り、ありとあらゆる協力支援を取り付ける工夫をして、今回の事例が、この"七曲り"の活気を取り戻すモデルケースになればと願う。

故郷の違う若い人たちがこの"七曲り"という長い歴史の中で個々のマンションやアパートでは到底体験することの出来ないかけがえのない時間を紡ぐみ、生涯を通して忘れえぬ親友を作ってもらう。そして、また街の人々とも気楽に触れ合い、巣立っていった後もいつの日か懐かしく訪ねたくなるそんな学生生活が送れるような再生をめざし計画をした。







ヘリテージマネージャー育成講座(建築物)を受講して Eグループ 安澤 邦彦

長い年月をかけて形成された古い町並みや古建築が好きな私は、ヘリテージマネージャー育成講座の第1期を終了された友人の勧めで軽い気持ちで受講を決めたのですが、受講が始まると興味深い講義でありながら1回、2回、3回目の講義のころは、日頃馴れないせいで終日となる講義をとてもきつく感じることもありました。

私は家業とは全く縁のない建築の道に進んで以来、設計一筋で半世紀余になりますが、振り返えりますと、1970年の「進歩と調和」をテーマとした大阪万博で著名な建築家がそのパビリオンの斬新さを競うかのように設計に取り組んだ高度成長期が、業界で最も華やいだ頃ではなかったかと感じております。以来、今日まで世の中は科学・産業・社会秩序や環境…など大きく変わりはじめ、そのあまりのスピードにいろんなところで調和が保てなくなりつつある今の姿は皮肉なことにも思えます。

日本の建物においても同様で、使い勝手の悪さや 多少でも古さが感じられると、深い検証もされずに 直ぐに解体建て替えへと、いともたやすく流れる世 相が加速されてきました。

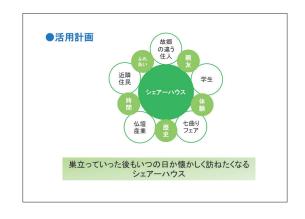
しかしながら、長い時代をくぐり抜けて人々に親 しまれ、暮らしと関わってきた町並みや、それぞれ掛 け替えのない固有の歴史やいろんな思いが凝縮され た建物こそが、我々の文化であり貴重な財産である ことを育成講座の先生方の講義で改めて学びました。 そして学びの中で、古来より永々と口伝と実践により匠の知恵と伝統の技が継承されているもの、風土に根付いた生活様式とともに風雪に耐え歳月を越えてきたものなど対象は様々であるが、それらに次の時代へと新たに息を吹き込み使い続けられるように出来るのは、建築に携わる我々であることを自覚し、その時々に課せられた責任を果たしてゆかなければならないことを強く感じました。

今日までに、価値ある建物を惜しげもなく解体されるのを目の当たりにしながら、どうする手立てもなく残念な思いで見過ごして来た建築界でしたが、この度設立される滋賀県へリテージマネージャー協議会が社会に広く周知されて、マネジメントを希望する人が次々と生まれてくればこの上なく有意義なことと考えます。元より微力ではありますが、私自身も受講された皆さんと情報を共有しながら、これからのライフワークとして古い建物に再び光を当て、保存と活用の仕事に参画させていただくことが出来るよう、加えて循環型の社会の構築に少しでも寄与出来るよう努めて参ります。

また、建築界のいろんな立ち位置で仕事をされている若い人に確かなバトンを渡していく責務を果していければと思っております。

後になりましたが、貴重な時間を裂いてご指導いただいた講師の先生方はじめお世話になった方々、 勧めてくれた友人に心より感謝とお礼を申し上げます。





会員の声「ふるさと絵図」作成を通してふるさとを再発見

甲賀地区 竹田 久志

私の住む甲賀市水口町今郷(いまごう)は、水口町の東部「岩上地区」と呼ばれ、野洲川沿いの東西約1.4キロ、旧東海道沿道に細長く家並みが続く昔からの農村集落です。

10年ほど前から旧街道を巡り歩く人々が増え、近年は春や秋の休日を中心に、ツアーで歩く一団のグループや熟年夫婦、家族の方たちを数多く見受けるようになりました。

街道を歩く人たちは、江戸日本橋から京都三条大橋までを一度に踏破する人、幾つもの区間に分けて1年も2年もかけて全行程を踏破する人などに分かれるそうですが、東海道四十九番「土山宿」と五十番「水口宿」の間に有る特別何もない当地は、次の目的地へと足早に通り過ぎるといった所であります。そんな当地でしたので、地元有志で話し合い、せめて歩く人たちが退屈に成らない様にと、今から7年前、全戸に花苗を配布して街道沿いに花を飾る活動や、道案内の看板を設置する活動を始めました。その後、活動を進める中で、時代とともに変わってきた風景や地元の歴史にまつわる事柄などを調べて、当地を歩かれる人々に伝えて行こうと活動内容にも幅が広がって行きました。

当地の旧東海道は昭和20年代に国道1号線が通過する際、所々の重複部分で旧街道が分断されております。特に集落の西端に在った当地の呼称の基である「岩上」と呼ばれる地点は、野洲川に大岩が張り出して街道が大きく迂回していたそうです。その後の国道1号線工事で大

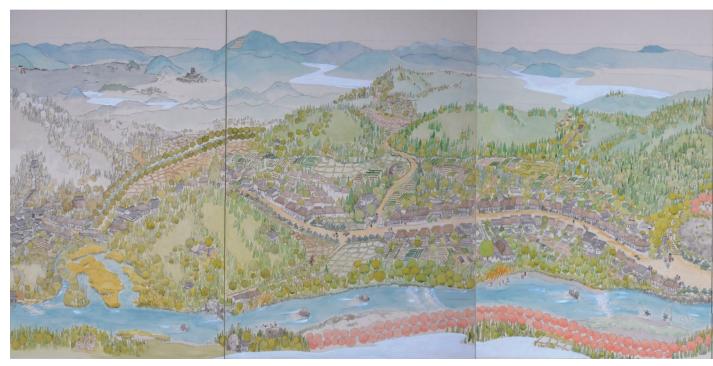
岩は削り取られ、現在では迂回していた街道の姿は残っ ておりません。

この岩山はその昔「岩神」と呼ばれ、信仰の対象となっていました。また、義経・弁慶にまつわる伝承話や、江戸時代の「近江名所図絵」や「伊勢名所図絵」にも紹介される名所でもありました。このように私たちの年代が知らない話を、今のうちに聞いておかないと、この先誰も知らなくなるのではないかと、古老を訪ね、昔の話を聞く事を始めました。

古老の話を聞く中で、知りたかった旧街道の事だけでなく、明治の終わり頃からの私たちが知らない時代の「ふるさとの様子」を聞くにつれ、なんとかこの話を残すことはできなものかと考え、まずは話を基に無くなった大岩のあたりや街道風景を絵として書き残しておこうとスケッチブックに描き始めてゆきました。そして下絵を基に何人かの古老に話を聞く事を繰り返すうちに、街道沿いに連続した数枚の「昔のふるさと絵」の形が出来あがっていました。

その後、地元の敬老会でその絵を基に「思い出話を聞く会」をやろうと云うことになり開催したところ、参加された老人たちからは、昔の暮らし振りや当時の仕事、祭りごとや子どもの頃の遊び等の思い出話に花が咲き、大盛り上がり





会員の声「ふるさと絵図」作成を通してふるさとを再発見

の大変和やかな会となりま した。

その会の終わり頃、「こ の絵を見ながらお爺さんや お祖母さんが孫にふるさと の昔話をしてくれたら良い



のになぁー」と思って描いていますと伝えると、「早く 仕上げて一枚貰えないか」との声が上り、「それではと」 その後仕上げることとなりました。

人々の心に残る思い出を絵として残し、次の世代に伝 承するこの手法は、滋賀県立大学の上田洋平先生が提唱 されている「心象絵図」そのものであります。丁度絵を 描き始めた頃に街道整備を通じて県立大学の先生方との 交流も有り、上田先生も当地へお見えいただいていまし た。先生には作成する絵を「ふるさと絵図」と命名する お許しと、「心象絵図」についての教えも頂きながら、 六曲一双の屏風絵として描き上げることが出来ました。

昨年秋に完成した絵は、巾3.6m高さ1.2mの金屏風に 直に描いた水彩画です。東に江戸城、北に琵琶湖と若狭





湾、中央に「岩神」を配置し、その東西に東海道沿いの 私たちが暮らす、昔のふるさとの風景と暮らしぶりを描 いています。





昨年10月には地元の保育園児と地元の中嶋市長による 完成披露除幕式を開いて頂き、沢山の人にご覧いただく 機会もできました。現在は地域の老人会や子ども会等に も出向き昔の暮らしやふるさとの歴史、昔のふるさとの 風景等のお話し会を開いたり、歴史街道整備の活動にも 声をかけていただき出向いています。





この絵を描き始めて足かけ3年、私も生まれ育った故 郷が随分好きになりました。一寸したきっかけから描き 始めた素人絵でありましたが、思わぬ「ふる里の再発見」 となりました。



滋賀県建築士会 2016年フォトコンテスト

受賞作品発表

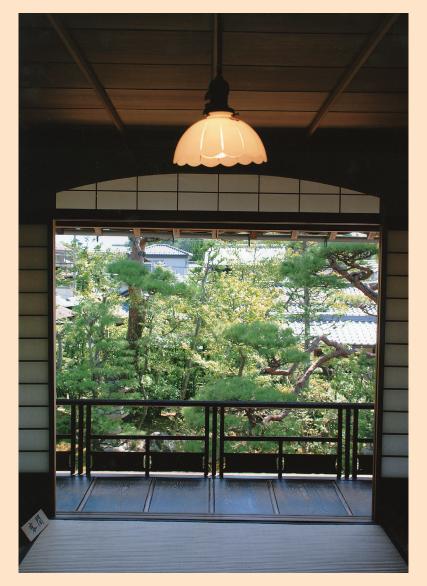


「郷愁」の部



「客間」

東近江市 磯部 和男



作者談:

落ち着いた空間に時が止まり 心がいやされました。



アンケートから:

緑が切りとられたようでとてもきれいだと思いました。 (一般男性)

「フリー」の部



「緑の並木道」 栗東市 松山 有信



作者談

少しは色づいているかと思い出かけましたが、緑のままもきれいでした。





アンケートから:

木の緑と草の緑が一体化して、その中に光と影のコントラストが加わり、 とっても素敵な作品だと思います。 (一般女声)



「郷 愁」の部

「フリー」の部

[Meiji · Taisho · Showa] 甲賀市 中本美栄子



∜ 作者談:

並べることで3つの時代の香りが感じられま



アンケートから:

こんなにすてきな場所で、昔話を読んだり音楽を聴き

「風と雲と、」

高島市 市川 真理



₹ 作者談:

流れる雲と波うつ麦たちのコントラストに魅了





アンケートから:

昔なつかしい風景がとてもステキです。麦のたおれ具 合がなんとも言えません。 (一般男性)



高島市 市川 真理



『作者談:

日本の高度成長期を支えた当時の島の盛況ぶ り人々の活気ある声が聞こえてくる気がした。



「冬の装い」

栗東市 松山 有信



(作者談:

岐阜県境の鳥越峠にて。





「秋色」

栗東市 松山 有信



作者談:

乙女が池周辺の民家の軒先で見つけました。



「山の神 吠える!」

大津市 谷口 公士



作者談:

私にはこの岩が「山の神」のように見え、大 声で叫んでいるように思えました。



「初冠雪」

大津市 谷口 公士



作者談:

標高2800mの紅葉狩が一転、当日は初雪でし た。森林限界域の這松も凍り付いていました。 これも美しかったです。



「冬の散歩道」

大津市 谷口 公士



作者談:

地道の少なくなった昨今、久々に広く凍った 道に出合いました。転ばぬように注意!!。





「秋全開」

東近江市 磯部 和男



作者談:

力強く綺れいな紅葉に思わず見上げてしまい ました。



「2016年1月 春まじか!」

甲賀市 中本美栄子



春めく陽ざしをいっぱい浴びて、梅は咲きま した



「宙に舞う」

東近江市 磯部 和男



《作者談:

神社で嬉しさを表現。想像以上に高く舞い上 がりびっくり!。



「ペーロン舟と光る湖」

高島市 市川 真理



西びわ湖の夏の風物詩。闘い前の静寂もまた 心地いい。

